

# 地方コンテナ港の課題と対応

## 日本港湾経済学会第64回全国大会

2026年9月3日、日名が参加した。

午前の基調講演では、金子隆義氏（中国地方港運協会会長）、中谷庄吾氏（中国地方港運協会副会長）、林健太郎氏（中国地方整備局港湾空港部長）、今岡俊之氏（中国運輸局海事振興部長）、佐渡克利氏（中国経済産業局参事官）が、それぞれの立場から、地方コンテナ港の生き残りの戦略、港湾政策・行政、適正取引、地域経済・産業政策などについて報告した。



本港湾経済学会と中国地方国際戦略チームの共催による第64回全国大会が、広島市内で開催された。今回の大会では、「地方コンテナ港の課題とそれへの対応」をテーマに、貨物量の減少や航路の不安定化、人手不足、デジタル化、ターミナルの統合・ダウンサイジング、集貨・創荷など、地方コンテナ港が直面する課題と今後の対応について幅広い議論が行われた。全国港湾からは德里副委員長、玉田書記長、港湾労働政策研究所から光部事務局長の3

金子氏は、地方港湾における労働者不足が顕在化し、5大港と比較しても人手不足が深刻化している現状を指摘した。また、地方

津守岡山大学教授を座長に、金子氏、中谷氏、林氏、長田氏、鈴木氏をパネリストとするパネルディスカッションが行われた。議論では、貨物量の減少や航路の不安定化に

午後からは、津守岡山大学教授を座長に、金子氏、中谷氏、林氏、長田氏、鈴木氏をパネリストとするパネルディスカッションが行われた。議論では、貨物量の減少や航路の不安定化に

大会では、地方港湾が抱える課題にも、港湾労働者の雇用と安全、これまで培われてきた技能・経験をどのように継承していくのかという視点が不可欠である。さらに、港湾機能を将来にわたって維持・発展させていくためには、港湾事業者や行政だけでなく、港湾を利用する荷主・船社など「港湾ユーザー」の理解と協力も欠かせない。とりわけ、人手不足や人件費をはじめとする

大会では、地方港湾が抱える課題にも、港湾労働者の雇用と安全、これまで培われてきた技能・経験をどのように継承していくのかという視点が不可欠である。さらに、港湾機能を将来にわたって維持・発展させていくためには、港湾事業者や行政だけでなく、港湾を利用する荷主・船社など「港湾ユーザー」の理解と協力も欠かせない。とりわけ、人手不足や人件費をはじめとする

大会では、地方港湾が抱える課題にも、港湾労働者の雇用と安全、これまで培われてきた技能・経験をどのように継承していくのかという視点が不可欠である。さらに、港湾機能を将来にわたって維持・発展させていくためには、港湾事業者や行政だけでなく、港湾を利用する荷主・船社など「港湾ユーザー」の理解と協力も欠かせない。とりわけ、人手不足や人件費をはじめとする

大会では、地方港湾が抱える課題にも、港湾労働者の雇用と安全、これまで培われてきた技能・経験をどのように継承していくのかという視点が不可欠である。さらに、港湾機能を将来にわたって維持・発展させていくためには、港湾事業者や行政だけでなく、港湾を利用する荷主・船社など「港湾ユーザー」の理解と協力も欠かせない。とりわけ、人手不足や人件費をはじめとする

# 「港湾を兵站基地にするな！」 「港湾労働者と戦争を考える」

9月28日  
中執で「特定  
利用港湾問  
題」断固反対  
姿勢を再確認  
！次回中執で  
各論審議へ！

9月16、17日掛けて開催した、第19回定期大会に於いて、一連の特定利用港湾問題について、次の内容の方針を確立しました。

(1) 26春闘協定に基づき、特定利用港湾による港湾運送事業を阻害することがないよう関係行政に求めている。

(2) とりわけ、政府の敵基

地攻撃能力の保有を認めたことによる港湾への「攻撃兵器の設置」を認めないことを強く迫っていく。また、武器・弾薬荷役を商港において行わないことを前提に、自衛隊の物資（車輛・自衛艦の生活物資など）を積載する本船の寄港については、事前協議事案として措置するよう取り組む。

現在、各地域では積極的な特定利用港湾問題反対の取り組みを講じていただいております。こうした背景も踏まえ、全国港湾として全国的な取り組みで、各関係する地域と更なる連携を講じていくこととなります。

一方、この特定利用港湾問題の対応策については、各地域毎で様々な考え方があっても事実です。しかし、全国港湾として「断固反対」姿勢の斉一化を図っていくことを考えております。

そのうえで、10月14日から開催する次回中執審議を経て、26秋闘の取り組みで本格的に闘争体制を構築していきたいと考えています。

どうか、仲間の皆様におかれましては、様々な考え方があっても、心一つに、団結してこの特定利用港湾問題に立ち向かおうではありませんか！

（全国港湾委員長・竹内 一）

## リレー随筆

### 猪鹿蝶！

皆様、ご無沙汰しております。教宣部員の古澤です。

季節の変わり目、体調を崩されていませんか。

「猪鹿蝶は花札で、ある一定条件を満たしたときの「役」のことを指します。

遊び方は二人で遊ぶ（こい）・三人で遊ぶ（花合）・三人から七人で遊ぶ（はちあ）など、いくつかの種類があります。簡単なルールを紹介すると

①手札と場にランダムに札を配る。②手札から一枚の場に出し、同じ月の札が場があれば合わせて取る。③山から一枚を引いて場に出す。この時

ある人は、ズバリ「花札」をされたことがある人ではないでしょうか。

ある人は、ズバリ「花札」をされたことがある人ではないでしょうか。

ある人は、ズバリ「花札」をされたことがある人ではないでしょうか。



こゝみん共済COOP

成り立ちは不明ですが、昔に考えた人は凄いなと思う「猪鹿蝶」でした。

あり、富を呼び込む動物とされています。蝶は「魂や復活・喜びの象徴。春に美しく舞う姿から、長寿や幸福を表す縁起の良い生き物とされています」

他にも調べると様々な由来が出てきそうですが、今回はこの辺で止めておきます。

このように勝負を進めていくと「萩に猪（7月）・紅葉に鹿（10月）・牡丹に蝶（6月）」の3枚揃えと猪鹿蝶の完成です。

実はこの猪鹿蝶、縁起の良い言葉として知られているのは存じでしょうか。

猪は「子孫繁栄の象徴で多産であることから、家族や子孫の繁栄を意味します」

鹿は「財運・金運の象徴。中国語で鹿は給料と同音で

コスト上昇に対応し、適正な荷役料金を確保するためには、港湾ユーザーにも港湾機能を支えるための適正なコスト負担について理解を求めていく必要がある。

今回の日本経済学会全国大会は、地方港湾が抱える課題とともに、港湾を支える労働者の役割と将来にわたって港湾労働を維持・発展させるべく、重要な機会となりました。引き続き、全国港湾・港湾労働政策研究所は地方港湾の果たす役割を踏まえ、港湾政策と港湾労働政策を一体的に捉えながら、現場で働く労働者の視点を政策に反映させていくことが重要である。

港労研事務局長 光部泰宏